

ハイデルベルク信仰問答より

問15 それでは、私たちは、どのような仲保者また救い主を求めねばならないのですか。

答え 真の（Ⅰコリント15:21）義しい人間（イザヤ53:9、ヘブル7:26、Ⅱコリント5:21）であって、しかも、あらゆる被造物よりも強い方、すなわち、同時に真の神（イザヤ9:6）である方であります。

前回も書かせていただきましたように、問14～18には一連の論理性があります。問14では、「人間に代わって罪を償うことのできる被造物はいないか？」という問いに対し、「いない。人間の罪は人間自身が償わなくてはならず、被造物に過ぎないものが償うことはできない」という答えが与えられました。しかし、最終的な答えはまだ先にあります。読者は「いったい誰が償ってくださるのか」という答えを念頭に置きながら、グッとそれを飲み込んで、その答えに至る過程に耳を傾けます。

今日のポイントになるのは、私たちの罪を償う方は「どのような仲保者また救い主」であるかということです。答えは二つあります。

①真の義しい人間であること

②真の神であること

これら二つの条件を満たした方でないと、私たちの罪を償うことはできないということです。

「仲保者」とは「間に立つ人」のことであり、仲違いしている二人の間に立ってくれる人を指します。身近な存在としては、結婚式の仲人のような人が挙げられるでしょう。仲人は新郎と新婦双方をよく知った人であり、結婚後二人の関係に問題が生じたときにも間に立って仲を取り持ってくれる重要人物です。現代の結婚生活で実際にそこまでの役割を果たしている仲人がどれくらいいるかは不明ですが、それほど重い意味を持つ立場にある人だということは思い起こされるべきでしょう。ただ、この役割の難しさは想像に難くありません。この人は双方の言い分を聞き、バランスの取れた物の見方をして二人を和解に導くスキル、更に言えば信頼に足る人間性が求められるからです。仲違いしている二人の言い分はそれぞれに聞くとどちらも一理あるように思えますので、判断は非常に難しいものとなります。

さて、今学んでいる内容によれば、仲違いしている二人というのは、神と人間です。仲違いの原因は双方にあるのではなく、人間の側にあるということが、先の例と大きく違う点です。この両者の間に立つ「仲保者」は、やはり双方のことをよく知っている人でなければなりません。神と人の両方の立場を100%知った方である必要があるのです。ここで心に留めておかなくてはならないことは、この仲保者がまず「神であること」より先に「人間であること」から説明されている点です。このことは、私たちをとりなす方が私たちの側に立って弁護してくださることを強調しているでしょう。私たちの隣に立って神に向き合い、「私に免じてこの人を赦してあげてください」と祈ってくださるのです。しかも、ただ祈るだけではなく、私たちの負債をすべて代わりに償うことによって、神が私たちに対

して怒りを向ける理由をなくしてしまわれるのです。更に、この弁護者は「本物の人間」であるだけでは十分ではなく「義しい人間」でなくてはなりません。不正な人間が間を取り持っても、神に対して義を表すことはできないからです。

次に、神と私たちとの間に立つてくださる方は「真の神」でなくてはなりません。それは、神の御心を知り尽くし、100%神の言い分を理解していなくてはならないからです。神はなぜ人間の罪に対して怒っておられるのか。その正当性を誤りなく説明できなくては、償いの値を正確に割り出すこともできないでしょう。4世紀のキリスト教史に現れたアリウス（異端）は、「御子には『始め』があり、彼は被造物であって、父なる神と異質な実体である」という考え方を提示しました（仮現説）。しかし、前回学んだように（問14）、如何なる被造物も人間の罪を償い得ないのであれば、キリストにはそれが全うできないということになってきます。真の人にして真の神であることが、神と人との間を取り持つための絶対的条件であり、資格なのです。

325年に成立した「ニケア信条」では、特にこのテーマが強調されています。

われらは、唯一の神、全能の父にして、
見えるものと見えざるものすべての創造者を、信ず。

われらは、唯一の主イエス・キリストを信ず。

主は、父から生れた神の独り子にして、父の本質より生れ、神からの神、光からの光、
真の神からの真の神、造られずして生れ、父と同一本質であって、
天地の万物はすべて主によって創造された。

主は、われら人類のためまたわれらの救いのために下り、そして肉体を受け、人となり、
苦しみを受け、三日目に甦り、天に昇り、生者と死者とを裁くために来り給う。

またわれらは、聖霊を、信ず。

それゆえ、主に存在しない時があり、生れない前はおられず、
また存在し得ぬものより生れ、
神の子は、異なる本質或は異なる実体より成り、造られ、
変化する者である、と宣べる者らを、
公同なる教会は、呪詛排斥する。

ここでは「呪詛排斥」という強い表現が使われていますが、それほどにキリストの二性一人格は曲げられてはならない教理であり、私たちの救いに関わる問題であることが分かります。私たちはどういう仲保者を求めているのか、いつでも説明できる備えをしておきたいと思います。